

Summit



2006年10月1日発行



編集・発行/NPO法人
環境防災総合政策研究機構(CeMI)
〒060-0001 札幌市中央区北1条西
8丁目2-39 日宝大通ビル8F
Tel. (011)271-2663



「北海道火山防災サミット 2006 in いぶり」開催!! ～「火の山」たちに触れ・語りそして学ぼう～

今年は、次世代を担う子どもたちを主役に、胆振地方で、そして主会場は樽前山麓の苫小牧市民会館で行われました。



「キッチン火山学」



「こども火山絵画展」表彰式
162点の応募作品から13点が表彰されました。



最優秀賞
「クッタラ火山と登別温泉」

Volcanic Disaster Reduction Summit Summit News Letter

「キッズシンポジウム」&「なぜなに火山」



道内5つの火山代表のこどもパネリストが出演しました。それぞれ、自分のマチの火山について発表し、その思いを語り合いました。

クイズ形式にした、「なぜなに火山」では、宇宙にも火山がある話で盛り上がりました。また噴煙の向きで天気が予測できるか? など、みんなで考えました。

北海道火山防災サミット

2006

in いぶり

火山の専門家や関係機関などによる講演やシンポジウムも行われました。

プログラム

1日目 7月31日(月)

○開会式

○報告「火山の恵みを考える」



パネルディスカッション

○報告「過去の教訓に学ぶ」

○シンポジウム

「火山との共生そして減災」

○記念講演

岡田 弘 北海道大学教授

2日目 8月1日(火)

○火山絵画展表彰式

○キッズフォーラム

「なぜなに火山」

「キッズシンポジウム」

○キッチン火山学

○シンポジウム

「火山と防災教育を考える」

○火山防災サミットいぶり宣言



「火山の恵みを考える」

進行役: 田鍋敏也(壮警町)

報告者: 三松三朗(エコ友の会)

太田秀伸(ワカサリゾート)

小川裕司(洞爺ガイドセンター)

田之畑忠年(後志森林管理署)

木住野泰明(環境省)



「過去の教訓に学ぶ」

進行役: 丸谷知己(北大)

報告者: 杉本伸一(雲仙普賢岳)

齋藤徳美(岩手山)

三松三朗(有珠山)

本吉俊久(雌阿寒岳)



「火山と防災教育を考える」

コーディネータ: 林信太郎(秋田大)

パネラー: 時岡真治(内閣府)

伴かおり(弥生中学校)

境智洋(道立理科教育センター)

行徳義朗(胆振教育局)

塩屋十三(千歳市)



「火山との共生そして減災」

コーディネータ: 田村亨(室工大)

パネラー: 中川光弘(北大)

吉井厚志(北海道)

岩倉博文(苫小牧市)

田中圭介(室地台)

山村路子(CeMI)

Volcanic Disaster Reduction Summit Summit News Letter

火山防災サミットいぶり宣言

協力: 陸上自衛隊第七音楽隊
苫小牧東高校演劇部

サミット宣言は、音楽と演劇を交え、趣向を凝らした内容になりました。「火山防災の輪」が北海道から全国に広がることを祈って、胆振地域13市町の代表がこの成果を未来に継いでいくことを誓いました。



第七音楽隊による演奏

創作劇「Volcanic Story」

記念講演

「北海道民へのメッセージ
～減災未来社会を～」



北海道における火山防災の発展に長年寄与している北海道大学の岡田弘教授が、これまでの思いとこれからの地域に期待することなどを語りました。